

NO.2  
1970.3.8

# 岐阜の博物館

編集兼発行 岐阜市岩戸町花月<sup>2の1</sup>  
濑戸内研究所内  
岐阜県博物館協会

## 博物館活動の方向

日本博物館協会事務局長 星野直隆

博物館が、文化価値の高い貴重な資料を収集し、保管するとともに、これを研究して展示への準備をすすめ、教育的配慮のもとに展示し、公開して広く社会教育を展開する。また、博物館が豊かな情操を養い、明るい楽しい生活の原動力となる。等々の博物館が基本的に持つべき機能については、博物館人周知の常識となっている。博物館人が集まる所、しばしば論議されることは、博物館は研究機関である。博物館は教育機関である。いや文化財の保存機関である等と、これらの何れかに重点を置いた議論を発展させているのである。が、館の置かれている諸条件によって、何れかにより大きなウェイトがかかっているということもあり得ても、要する所、その三つなり四つの論が相接し、相抱擁して、全体として博物館としての役割を果たしていかなければならないと考える。比重的相違だけのことである。研究の人

事、研究費予算、研究室と研究資料等の条件がよく整っているならば、その博物館は研究の成果も上るし、研究博物館としての特色が現われるであろう。しかし、教育・展示・収集保存等を無視したものでないことは、云うをまたない。

私はこゝを問題にしたいことは、博物館長をはじめ、庶務・学芸等の館運営の衝に当たっている人たちが、博物館をいかに意識しているか、その役割を通してどのような目標への方法的問題意識を持っているだろうか、という点である。もし、この問題意識が欠けているということになれば、博物館は活動目標を見失う怖れなしとしない。ある意味では、「なれる」ということ——マンネリ化は危険であるとさえいえる。我々は博物館を管理し、運営する立場に在るとともに、博物館を利用する、入館者の立場に自らを置いて、展示を通じ、解説板を通じ、或は照明や展示

台高低の条件を通し、或は、博物館人のサービスを通じ、更には館内清掃やトイレの状態、館周辺の整備、その他のムードに至るまで、批判的に、卒直に、利用者の立場で見直してみる。即ち自己批判してみるということは大事なことと思う。そしてそれらの問題点は、職員の定例会議の議題として、真剣に討議する。館員全体がいつも気楽に話合、ている中でも、共通の問題をとらえ、話合ひ、その処理を研究する。そうしたことが、日々の心すべき要件ではないだろうが。

次に必要と思われることは、他の館との情報・資料の交換、連絡・協力ということである。もはや博物館は孤立しての活動は許されない。地方にあるいくつかの館・園が協力しあひ、職員も助けあ、てこそ、研究にしても、展示等の技術にしても、講演会や映画会等の開催に至るまで円滑に運営されるはずである。

我々は、博物館事業の方向を、発展し流動している時代の中において、より明確にとらえることが要求される。この方向を見あやま、たり、見失、たりしたならば、役に立たない古物の収蔵庫的博物館に陥りかねないのである。我々の日々の生活に於

て受入れる情報は、地球全体という広域の世界から、しかも大量に、そして何分、何秒という迅速さで、テレビやラジオ等のマスコミュニケーションによ、て、間断なく入、てくるのである。社会の人々が、マスコミを通じて得る知識なり情報は、多くかつ早いのである。我々の生活がそのような形を差展している時、博物館の教育活動をどのようにこれに結びつけていくか、これは大きな課題である。

そこで一つの考え方として、地方博物館は、その教育活動の体制の中に、地方大学、研究所等との連携によ、て、博物館のフレイン(膜腔)を充実させることが先ず考えられる。また野に偉賢ありて、潜んでいる地方文化人を発掘して、博物館事業へ協力を求めることも考えられる。博物館の陣容に、更にこれら外部の協力者を加えたなら、相当の活動体制が組織できるのではないだろうが。現代社会の人々は、色々な形で新しい知識を求めている。しかもそれは、大学教育に比べるような知識内容であり、高度な常識・時には専門的な知識への欲求すらもある。時には、美術・歴史・芸術への欲求もある。したが、て、このような社会人の欲

# 欄橋源太郎伝(2) 宮崎 惇



産婆はよくといひカミソリで、赤ん坊の背中を少し傷つけて血を出した。(いま思うと乱暴のように思えるが、当時はこのようにして悪い血を体外へ出すため、多くの産婆が背中を切った。いまの助産婦が、赤ちゃんの生まれた時、自薬をさすのと同じくらいのつもりをやったのだらう。)

祖父助右衛門には、ただひとりの子どもがおり、源次郎と呼んでいたが、小さいときに死んでしまったので、清六を養子に迎えたのであつた。

父清六は長男が生まれたので、名前をつけるため助右衛門に相談した。「よしや、源太郎としたいのじや」とのことばによつて、清六はその気持ちを探し、長男の名を源太郎ときめた。そして、ゆきの家へ知らされた。

親しい人から「源坊」といわれ、一般の人々からは「源さ」「源ざ」と呼ばれて、源太郎の子ども時代が始まった。

生まれて1ヶ月後、北方へ母といっしょにもどつてきた赤ん坊は、母の乳もよくでて、すくすくと畜つていた。氏神様へ参詣して、親せきや

近所の子どもをまねいて、赤ん坊をみてもらった。子どものいない家へは壺箱に赤飯をつめ、さびなをそえて郵送した。台の上へのせた壺箱には、塩瀬の布に定紋のついた風呂敷ぐらゐの重掛けをかけて持っていた。まねいた家からはお祝いとして衣類などをもち、これらのお家は、出産1ヶ月前の帯祝いの時、餅を持っていた、てあ、たところである。

源太郎の家は、祖父がし、かりしていたため、このようなしきたりをきちんとおこなつた。

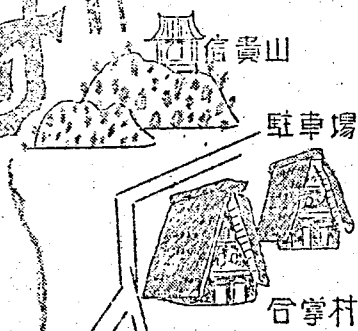
むかしは盛助と書いた時もある、たそうだが、森町といわれるだけあつて、農家の屋敷には大木があちこちにはえていた。氏神様の大井神社にも樹令 千年ともいえる大杉があつた。

源太郎の屋敷にも大木の切り株があり、毎年秋になると、4本シメジがはえてきた。明治3年、源太郎のよちよち歩きの時、暴風雨が美濃地方をおそい大被害が出た。この秋には特に多くの4本シメジが出た。このシメジの入った雑炊を、源太郎は人がびくりにする程食べるようになった。4本シメジの入ったみそ汁も大変よろこんで飲んだ(つづく)

お出かけください

館園紹介 No. 2

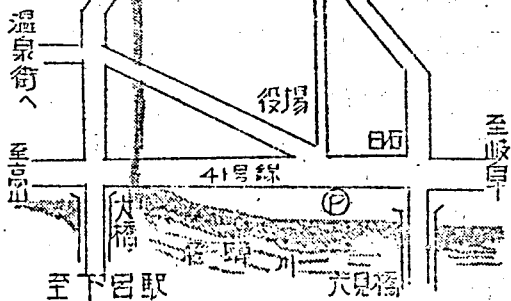
# 下呂温泉 合掌村



位置 下呂町森字柿ヶ平 2369番地  
 標高440m, 面積8561m<sup>2</sup>,  
 下呂駅よりハイヤーで約3分  
沿革 ◇昭和38年3月29日, 大野郡白川村大字御田衣字上洞229番地より, 重要文化財大戸家住宅一棟・板蔵一棟, 計二棟を移築し薩摩御土館と名付け, 内部に民俗資料1000点を展示し一般に公開した。

◇昭和44年5月1日, 大野郡白川村大字飯島字町屋より, 大濤家住宅, 富山県東砺波郡大字上平村字西赤尾より伊並家住宅, 同県同郡平村大字小原より岩崎家住宅など三棟を移築し, それぞれ民俗資料展示館・休憩所, 事務所とし, 取換古材料で合掌造便所一棟を併設した。

以上により, 合掌造住宅4棟, 板蔵1棟・便所1棟の計6棟と存, たので「合掌村」と称呼するようになった。



—— 案内図 ——

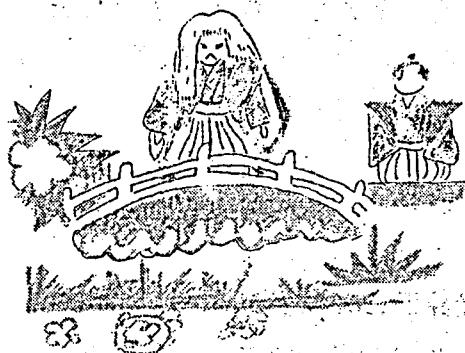
## ◇特徴と見どころ

- 近年農山村の人口は都市に集中し, 過疎化現象が著しく拡大し, ひなびた農山村の面影は見られなくなつた。そこで失われゆく山村を復元保存し, しばしゆ, たりと帰村の夢園気を味う。
- 休憩所において公開される比類なき独創的人形劇(無形文化財) 竹原文楽は, 人形造り, 台本, 舞台装置, 大小道具, 照明・セリふ,

130体の人形の操作に至るまで、洞奥一郎氏が全託ひとりで行うもので、人間能力の無限さを如実に示し、一日の休養によつて、疲れを慰やした心に、深き磨銘と勇気を与えてくれます。

。飛騨郷土館（大戸家住宅）

国指定重要文化財（全国4戸のうちの一戸）。数多い古民家の中で、風雨豪雪と激震に耐える建築原理が簡単に力強く表現されており、かつて



は60余名の大家族が一家をなして生活した面影をとどめている。

。民俗資料展示館

北海道開拓史に一頁を飾り、天下の豪商・薩摩屋久兵衛古文書・下呂町峯一合縄文遺跡よりの出土品・草花土器・サヌガイト製石器類・パン状炭化物等が展示されている。

事務所のTEL.05762(5)2239

開館 午前8時～午後6時（無休）

入館料 大人200円、小人100円

一口法規

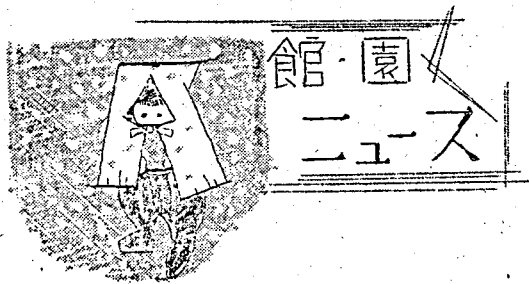
第三条（博物館事業）

1. 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

2ページより続く

求する社会的教養への求めに答えるための、博物館の教育活動が樹立されなくてはならないことは言うまでもない。ことばをひねれば、生涯教育を求め、生涯教育を必要とする時代が眼前に到来したのである。その生涯教育への道は、博物館が計画的に組織的に行うべき庶民の大学講座の開設である。不特定多数の来館者に対応する展示による教育から、特定の少数社会人に対する計画的な

市民大学講座をもつて行う、高い趣味と教養の活動への前進である。学ぶことに終りはない。これに応えるものこそ生涯教育の体制であろう。この意味において、博物館活動の方向を明らかにして、そのための準備を、たえず考えていきたいと思う。私は博物館の諸賢とともに、我々の事業の目標を明確にし、その方法について、大いに論議したいと望み、あえて所思を披露した次第である。



◆日本愛宕館◆

・初代館長小林泉一氏昨年1月逝去により、現在二代館長小森勝文氏となりました。

◆奥美濃郷土館◆

・休館日変更 毎週木曜日(8月を除く)  
 長島氏鉦物コレクション展示室  
 ・鉦物寄贈者「長島乙吉先生」が、昨年12月に死亡され、12月6日午後1時より、東京都下・キリスト教中原教会にて告別式がありました。享年79才。

◆大垣城◆

- ・1月に、画廊にて、西濃書道連盟による書初展を行いました。
- ・2月には写真展を実施しました。
- ・3月中には、デザイン展を行っています。
- ・1～4月中は、大垣市文化財協会発足10周年記念行事として、

★鹿鳴館時代衣裳展と翠ワ回新春版画展、赤穂浪士展(1階至館)を行っています。

どうぞ、お出かけ下さい。

- ・2階は産業観光室(市内主要商店及び工場の商品展示と民俗資料展示) 3階は考古学資料室、4階は展望室となっています。

会費未納の館園に!

岐阜県博物館協会の組織の拡充と活動の活発化のためにも、会費未納の方は、送金ください。

会費額	公立博物館園	1,500円
	私立博物館園	1,000円
	個人会費	300円

★送金は現金書留ないしは、郵便振替でお願いたします。

振替番号 名古屋 28716

岐阜県博物館協会 へ

編集後記

- ・予定通り第2号をおとどけます。春の訪れとともに、各館園への訪問客も多くなることでしょう。小誌が、少しでも貴館園の発展に役立てば……と願っています。
- ・社会教育の充実が叫ばれている今日、県内の各施設が、ちり手を組んで、より高い、充実した大衆教育を進めたいものです。各館園の声を、どんどん本誌へ!! (S.O)